



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2014.6

No.362

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



2014年4月27日 さいたま市秋ヶ瀬公園探鳥会の鳥合せ(探鳥会の最後に、皆の見た鳥を確認する)

県内で年間170種を見る計画

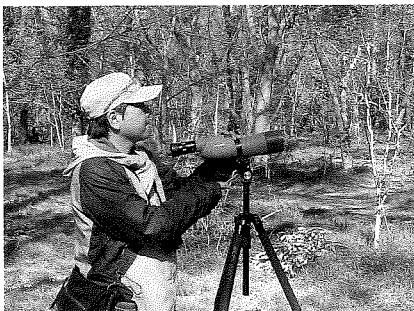
石塚敬二郎（さいたま市）

この特集記事を読む前に、まず先月号の9ページ「2013年 埼玉県内鳥見ランキング結果」、そして2012年9月号特集『県内鳥見数 155種 親子鳥の鳥見日記』にも目を通すことをお勧めします。読み応えがより増してきます（編集部）。

●懲りずに……再チャレンジ！ そもそも自然相手に「計画」…これがまず間違っていますよね。月が経つごとに思い通りにいかないストレスが溜まり、不安感だけが増していく…そんな1年を過ごすことになるのに…。

●強迫観念……ではなぜ？ 「野鳥の会」の皆様なら『ビッグ・ボーイズ・しあわせの鳥を探して』という映画をご存知ではないでしょうか。「北米大陸で年間何種の鳥を見られるか」にチャレンジする人達を描いた作品（昨年末このDVDをSさんから頂く）、その冒頭のセリフで「強迫観念…がこのイベントに駆り立てる理由の一つ」にいたく共感を覚えました。「二度と…」と誓った翌年、Uさんが出された「171種」という記録（2013年4月号「2012年 埼玉県内鳥見ランキング結果」）に勝手なライバル心を抱き、今日もどこかで誰かが数字を伸ばしている…という極めて小心者の強迫観念（思い込み？）が、再チャレンジの要因となっているようです。

●すべて埼玉……話がそれてしまったので本題に。まず表題『一計画』とありますが2012年の前回の時ほど計画らしい計画を実は今回立てていません。さすがにこの動きを始めて4年目、多少感覚的に身についた部分もあり、



やったことと言えば過去2年分の鳥の出現状況を季節ごとに簡単なカレンダーにして、妻のお買い物メモと一緒に冷蔵庫の扉に張っておいたことくらい…（笑）。

「年間176種？ 考えられない?!」。よく言われますが、鳥見の仕方が少々皆様と違うだけなのでは？

昨年の総鳥見日数は約130日…この日数が多いか少ないかの判断はお任せしますが、皆様と違う部分はそのすべてを県内での鳥見にあてているということでしょう。単純計算だと週2ペース程ですが、毎週末に鳥見…という訳でもありません。仕事の都合上、休みは不規則しかも連休取得も困難…ただし午前中であれば比較的時間が取り易い…なので1回の鳥見にかかる時間は長くて半日（お昼まで）、短い時は現地30分なんてこともしばしば…この条件が、近場であればポイントとなる期間に集中して鳥見に出向く事が出来る…結果「埼玉県内のみ」という必然にもつながった訳です。

●営業力？……また私のようにキャリアも浅く、知識・経験が不足しているものにとって大変重要なのが「情報収集」力です。携帯やインターネットのおかげでリアルタイムに情報が発信される今日、もちろんそれを利用しない手はないのですが、これも現場での積極的な社交活動→営業力？がポイントになってきます。特に知らない場所では「元気な挨拶・明るい笑顔」を心がけています。

●正月三が日……この3日間、すべて鳥見に出かけました（大晦日は仕事、職場で年を越したが…）。

前回の経験から前半が肝心、また昨冬は冬

鳥の状況に恵まれていたこともありスタートダッシュに力を入れました。以下が「176種」に至るまでの経緯…

正月三が日…55種 → 1月末…89種 → 6月末…146種 → 最終12/26「オシドリ(玉淀湖)」で176種。

前半で全確認種数の8割、これは「冬鳥は極力後半の冬に残さない」と心がけた結果です。

●**珍鳥!**…もちろん魅力的です。でも昨年私が確認した中で珍しい?といえるのはヘラサギ(伊佐沼)、オオマシコ(森林公園探鳥会)くらい…他はほぼ毎年、県内いずれかで確認されているもの。むしろこの部分を取りこぼさないことが基本だとも考えます。

●**海のない埼玉**…なかでも重要な鳥種としてやはりシギ・チドリ類(昨年の確認種数は26種)。その飛来種数が年々減っている中、どこまで数字を確保できるかがカギ。昨季は一昨年の行田市斎条のような恵まれたポイント(シギ・チのみ1日で16種)がなかったため、いくつかの場所に足繁く通う他ありませんでした。そして次に私が挙げたいのがカモ類以外の水がらみの鳥です。

もう少し具体的に言うとカイツブリ類・カモメ類・アジサシ類。この中で昨年、私が確認した種にミミカイツブリ、アジサシ、カモメ、ウミネコ等がありますが、県内ではなかなかお目にかかれない種類ではないでしょうか。全体の数字からすればわずかな部分ではありますが、最終的にはこの辺が数の差になっているのでは?とも考えます。ここで昨年出かけた鳥見場所の上位を挙げます。

①秋ヶ瀬公園…51回、②伊佐沼…34回、③大久保農耕地…24回、④志木市宗岡田園…19回、⑤川越市南古谷田園…17回、⑥彩湖…17回、⑦芝川第一調節池…11回、⑧北本自然観察園…7回、⑨天覧山…6回

メインである秋ヶ瀬公園を除き、その上位が田園地域・湖・沼であったことから前述をどれだけ重要視していたかをご理解頂けると思います。続いて注目している探鳥ポイン



トについて触れます。

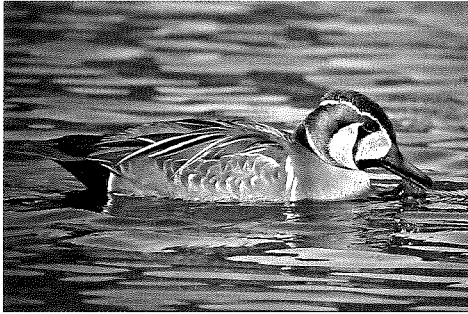
●**県民の森**…「栃木」ではなく、もちろん「埼玉県民の森」です。秩父芦ヶ久保に位置し山頂の標高が900mを超えるこの場所、昨季も登山途中でシカやアナグマと遭遇!随所に「クマ出没注意」の看板もあり、さすがに他とは違った鳥種が期待できます。昨年はここでクロツグミ、キバシリ他が確認できました。

そして「サシバの渡り調査」時期(9月中旬～10月中旬)の「天覧山」を挙げます。ハチクマ・クマタカ等ほぼ県内では期待出来ない猛禽類と出会える可能性も!しかもこの時期ならば長年調査を続けていらっしゃるベテランの方々が毎日居るので、猛禽類の識別は…、という方でも安心です。昨季はここでハチクマ、チゴハヤブサ他を確認しました。最後に「伊佐沼」のソゴさ!?…についてはここで触れるまでもないでしょう。

…と、ここで自ら言うのも何なのですが、今回はかなり頑張ったと言いますか(笑)…

●**200種**…それでも昨年の県内いずれかで確認されていて私が確認できていない鳥種が、私が把握しているだけでも20種以上あり、すなわち「年間200種オーバー!」も不可能な数字ではない、という事。機会がございましたら皆様方も一度はチャレンジしてみてください…という事でさせていただきます。

●**最後に**…今回も貴重な鳥情報を提供して下さった皆様と、常に寝不足状態である私を案じドライバーをかってでてくれた妻に感謝しつつ。



トモエガモ(編集部)

ヶ所で、すべて公園(公園化している調節池を含む)でした。いずれも来園者や近隣の住民による不定期な給餌でした。

「今シーズンはカモが少なかった」という声があちこちで聞かれましたが、実際にはどれぐらい少なかったのでしょうか。昨年も調査が行われた32ヶ所について、昨年と今年の結果を種類ごとに比較してみました(下の表)。全体の個体数は昨年の約10%減でした。この減少に大きく影響したのはカモ不明種(ほとんどが渡良瀬遊水地の記録)ですが、種類としてはホシハジロ、オシドリ、ミコアイサ、ハシビロガモ、キンクロハジロが減少しました。一方、オナガガモは昨年の1.9倍に増加しました。マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモの個体数は、ほぼ昨年と変わっていないことがわかりました。

今回の調査は以下の49名の方にご協力いただきました。この場でお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。厳しい寒さの中で、お疲れさまでした。今後とも、ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

(研究部 小林みどり)

<調査協力者>(五十音順、敬称略) 相原修一、相原友江、浅見徹、新井巖、石井智、石川敏男、石塚敬二郎、榎本秀和、海老原教子、大井智弘、大井はるえ、大坂幸男、工藤洋三、倉崎哲郎、小池一男、小池順子、小荷田行男、小林ますみ、小林茂、小林洋一、小林みどり、駒崎政雄、佐久間博文、佐野和弘、佐藤宏、柴野耕一郎、鈴木秀治、高橋のり子、田邊八州雄、千島康幸、手塚正義、長嶋宏之、長野誠治、中間清美、中村治、中村豊己、野口修、長谷部健二、島山孝、菱沼一充、菱沼洋子、藤掛保司、藤掛宮子、藤澤洋子、船木数樹、山口芳邦、山部直喜、吉原俊雄、吉原早苗。

昨年と今年の種類別個体数の比較

	コハク チヨウ (*)	オシ ドリ	マガ モ	カル ガモ	コガ モ	トモ エガ モ	ヨシ ガモ	オカ ヨシ ガモ	ヒド リガ モ	オナ ガガ モ	ハシ ビロ ガモ	ホシ ハジ ロ	キン クロ ハジ ロ	ホオ ジロ ガモ	ミコ アイ サ	カワ アイ サ	カモ 不明 種	計
2013年	9	24	2097	1452	1618	4	56	137	1154	371	81	191	502	12	104	14	2294	10120
2014年	0	8	1735	1703	1754	19	54	135	1134	695	50	57	341	10	58	12	1192	8957
14年-13年	-9	-16	-362	251	136	15	-2	-2	-20	324	-31	-134	-161	-2	-46	-2	-1102	-1163
増減比(13年を1とする)	0.33	0.83	1.17	1.08	4.75	0.96	0.99	0.98	1.87	0.62	0.30	0.68	0.83	0.56	0.86	0.52	0.89	

(*)コハクチヨウについては: 昨年に続いて調査が行われた32ヶ所では今年記録されなかったためこの表では0羽となっていますが、今年、調査を再開した2ヶ所で計55羽が記録されています。

	コ ハ ク 子 ウ	オ シ ド リ	マ ガ モ	カ ル ガ モ	コ ガ モ	ト モ エ ガ モ	ヨ シ ガ モ	オ カ ヨ シ ガ モ
入間川 豊永橋～新富士見橋(築山市)			8	3	38			
越辺川 *	47			11	13			
荻川 荻原橋～戸田橋(戸田市・川口市)					8			
荻原(戸田市)			6	10	33	13	19	
南埼玉郡磯崎ふもと沼川(西區・富士見市)			3	46	31			
*甲府川(白鳥飛來地)(深谷市)	8							
玉造河原(1)の博物館付近(新野町)			7	6	16	1		
玉造(久喜町)			8	26	2	20		
鴨川 *			27	3	36			
鴨川(松伏町(松伏区))								
元市川 *			41	168	137			
元市川(松伏町～八幡橋～清原(蓮田市))					8			
*東北本線(松伏～泉(蓮田市))					75	112		
城川(松伏～水戸橋(岩槻区))				33	40			
水戸川(岩槻区)								
古利根川			2	3	27			
古利根川(松伏～豊原橋(越谷市・松伏町))					81	13		
新片川 *			2	93	31			
新片川(松伏～伊勢崎線～三野宮(越谷市))								
利根川			96	16	16	2	5	
利根川(坂東～下流(本庄市))					63	136	52	18
新河内川						94	30	12
新河内川(磯崎ふもと沼川)								
柳瀬川			1	15	20			
柳瀬川(富士見橋～栄橋(志木市・富士見市))					8	52	228	19
芝川								20
芝川(松伏橋～通新橋(大宮・野呂・緑区))								

☆:今回から調査を開始 ☆:今回から調査を再開/必ず市内内は
区名を記載



野鳥情報

蓮田市馬込 ◇2月25日、ツミ。朝6時頃からしきりに鳴いていた(本多己秀)。

蓮田市黒浜 ◇3月8日、田んぼでコクマルガラス暗色型8羽、タヒバリ1羽、ツグミなど(本多己秀)。3月15日、上沼のアシ原でベニマシコ♀、ホオジロ、コゲラ白化個体など。3月15日、国立東埼玉病院でハイタカ♀、シロハラ、ツグミ、メジロ、ジョウビタキなど(本多己秀・久文子)。

上尾市平方 上尾丸山公園 ◇3月9日、アリスイ、アオジ、ホオジロ、ジョウビタキ♂、ウグイス、キジ♂、ミヤマガラス約20羽など(本多己秀・久文子)。

さいたま市岩槻区城町 ◇3月13日午前10時頃、シラコバト1羽。小雨が降り出したため、傘をさしての観察だったが、はっきりと確認できた。1羽だけだが、2月中頃から時々見られるようになった。継続して観察したい(菊川和男)。

坂戸市浅羽ピオトープ ◇3月16日午前11時40分頃、ヤブランが群生する林にヒレンジャク11羽。この日初飛来か!? 木の枝から地面に降りて、ヤブランの実を採食しては枝に戻るを繰り返す(増尾 隆)。

坂戸市多和目 ◇3月23日正午すぎ、高麗川右岸、天神橋たもとの低木にとまるベニマシコ♂1羽。周辺の枯草やアシなどに降り、採餌行動しているようだった。当地では初見(増尾隆)。

鴻巣市大間1丁目 ◇3月23日午前11時ごろ、ツバメが1羽。今季初認。同24日、2羽+が飛び回る。同25日、もう当たり前にツバメの姿が見られるようになった。ここ数日の暖かさで、ツバメが次々に渡来しているのではないかと(榎本秀和・みち子)。

熊谷市大麻生野鳥の森 ◇3月26日、20羽ほどのヒレンジャクが、林床のヤブランの実を、代わる代わるついばんでいた。今年はヤブランの実の付きがよさそうだったので

期待していたのだが、予想どおりだった。熊谷大橋の北側の林でも、20羽+の別な群れを見る。しかし、黄色いのはいない(榎本秀和・みち子)。

春日部市薄谷 ◇3月27日午後12時8分、ツバメ1羽、小雨模様の曇天下、低く飛ぶのを視認。今季初認(石川敏男)。

吉川市きよみ野 ◇3月28日、ツバメ2羽確認(高野 智)。

春日部市増田新田 ◇3月28日午後4時20分、ツバメ1羽、自宅近くの電線にとまり、「土食って虫食って渋〜渋〜」を繰り返した。燕尾が長いので♂と思われる。4月1日、午後5時13分、自宅車庫内に入りし、古巣の様子を見に来た模様。我家のツバメ君が今年も戻って来ました(石川敏男)。

春日部市備後須賀稻荷神社 ◇3月28日午後4時20分〜5時、境内の木の枝で、アオジ♂1羽が囀っていた(石川敏男)。

春日部市武里中野 ◇3月28日午後12時20分、ツバメ2羽、田んぼ上空で飛び交い交差した。当該地区での初認。4月6日夕方、ムナグロ初認。自宅東方から複数の声を聞く。確認しに行くと1羽しか見当たらず。4月13日夕方、別の田んぼで4羽の群れ(夏羽2羽、冬羽2羽)を確認。4月14日夕方、同じ田んぼで3羽(夏羽1羽、冬羽2羽)。4月15日午後5時40分、同じ場所で4羽(夏羽2羽、冬羽2羽)。いずれの日も朝は確認できなかったもので、夕方になって戻ってくるものと思われる。ねぐらにする田んぼと採餌場所が異なるのだろう。4月8日午後、チュウサギ、田んぼに1羽いるのを視認。翌4月9日午前、同じ個体と思われる1羽を確認。その後、姿なし。通過個体か。4月8日午前、セッカの初鳴きを聞く。弱々しく「ヒッヒッヒッヒッ、チャ」。4月13日、同様に力強さに欠ける声。4月15日の朝は、少し強い声で、「ヒッヒッヒッヒッ、チャチャチャ」ととともに近かった。4月10日朝、草地になっているフェンスで囲まれた三角遊水地周辺でホオアカ。4月12日、13日、14日、15日にも朝に毎回4羽確認。セイヨウカラシナの花の群落内や盛り土の

草地で採餌していた。姿を確認できるのは朝の内だけで日中はどこかに分散しているようだ。4月12日朝、ウズラ1羽、三角遊水地内で葉が大きくなったスイバの根元で偶然1羽を視認。証拠写真をと構えたが、残念ながら背しか撮れず。その後、ほぼ毎朝チェックしているが確認できず。4月15日、タヒバリ、一時よりは数は減ったが、まだ残留中。朝は数羽見られるが、日中は散在して単独で採餌。夕方6時前後になると三角遊水地に戻って来て、一旦はフェンス上に並んでとまる。4月11日に6羽並んだことがあり、皆夏羽に衣替え。間もなく飛び上がり、遊水地周辺を飛び回って夕暮れの中を、遊水地内に姿を消す。ねぐらにしている数は10羽前後と思われる。ツグミ、田んぼのあちこちでみられるが、特にサッカーグラウンドの芝地に散在、多いときには20羽+。「ビビッチョイ」と聞こえる鳴き声を発した。これは地鳴きなのか、轉りの一種なのか？（石川敏男）。

吉川市上笹塚 ◇3月29日、畑でキジ♂1羽（高野 智）。

さいたま市緑区芝川第一調節池 ◇4月1日、カワウ3ヶ所で抱卵中。アオサギ40羽、一部の鳥は嘴が赤くなっている。カイツブリは「ケレレ」と鳴き、ツバメも飛び、白い頭のチュウヒはトビと戯れ、近くの木瓜の花にはベニマシコ7羽、だいぶ赤い。見沼田んぼは桜満開、春爛漫（野口修）。

坂戸市浅羽ビオトープ ◇4月1日午前10時30分頃、水路左岸ワンド手前の草地で、地面をあちこちと歩き回る、夏羽のカシラダカ♂1羽。成鳥夏羽は初めての観察（増尾隆、中間清美）。

川越市伊佐沼 ◇4月3日、せつかくの休日なのに朝から雨…。気を取り直して、こんな日は伊佐沼です。まだ多くのカモ類が残るなか、いましたムナグロ8羽、今季初認！他に、イソシギ、タシギ、クサシギ、コチドリに頭が黒くなり始めたユリカモメ。あっ、それとヘラサギも（石塚敬二郎）。

さいたま市岩槻区野孫 ◇4月14日、ムナグロ25羽、初認。3回旋回後、着地。近くに



ツミ 2013年6月29日 田島利夫

はケリ2羽、ここのケリを10年近く見守る（野口 修）。

嵐山町 ◇4月16日、都幾川で写真を撮っていたところ、背後からカワウが飛んで来て、私の横を通過（勿論上空です）。そのまま森林公園の方にでも行くのかなと思っていたところ、急にターンし戻って来て、大きく円を描きだした。そして、羽ばたかざグルグルと帆翔を始める。かなり高度を上げていき、暫く見ていたが、見失うぐらい小さくなってしまふ。カワウでもこんな帆翔をするのですね、初めて見ました（大川清久）。

春日部市武里中野 ◇4月18日午前10時20分～12時30分及び午後4時35分～5時30分。田んぼのあちこちでカルガモ、2羽ないし3羽単位の数組が見られる。飛び交い、営巣場所の見定めに忙しいようだ。住宅難のせいか、近年は狭い田の畔で営巣している。セッカの初鳴き、田んぼから飛び上がり、上昇しながら、不完全だが「ヒッ、ヒッ、ヒッ」と短く鳴いて遠ざかり、離れた田んぼに降下した。ムナグロ、午前は16羽、内夏羽3羽。午後は別の群れが飛来し、2群計約30羽に増加。ムナグロの群れに混じってウズラシギ1羽飛来。キョウジョシギ♂1羽、ムナグロの群れと行動していた。他にダイサギ1羽、チュウサギ3羽、コサギ2羽、アオサギ1羽、コチドリ2羽、タシギ1羽、キジバト、カワセミ♂1羽、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、タヒバリ2羽+（夏羽個体も混じる）など（石川敏男）。



行事案内



オオヨシキリ幼鳥

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：未就学児無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：6月1日（日）

集合：午前 8 時、東武越生線川角駅前。

交通：東武東上線川越 7:19（準急）→坂戸で越生線乗り換え 7:40 発。または寄居 6:43 →小川町乗り継ぎ、坂戸で越生線乗り換え。JR 埼京線大宮 6:37 →川越で東武東上線乗り換え。

担当：山口、久保田、志村、鈴木、高草木、藤掛、藤澤、増尾、持丸

見どころ：子連れのカルガモなどを見られる季節です。カワセミも出てくれますよ。探鳥会では一昨年から確認できなくなったホトトギスですが今年はどうでしょうか。お弁当を食べながらの交流も楽しみましょう。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：6月1日（日）

集合：午前 9 時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口から、北里メディカルセンター病院行きバス 8:36 発で「自然観察公園前」下車。

担当：浅見、相原（修）、相原（友）、大坂、岡安、柴田、立岩、飛田、内藤、永野、村上、山野、吉原（早）

見どころ：梅雨入り前の青空か？ 灰色の雲の下か？ いずれにしても、オオヨシキリとホトトギスが、季節を告げる歌声を聴かせてくれるでしょう。サンコウチョウの声

にも期待。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：6月1日（日）

集合：午前 9 時、浦和くらしの博物館民家園 駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅東口②番バス乗り場から、東川口駅北口行き 8:37 発で「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤、赤堀、大井、須崎、野口（修）、藤田

見どころ：カッコウ、オオヨシキリ、セッカ…鳥たちの歌声を聞きながら新緑の芝川第一調節池を一周します。

注意 途中トイレがありません。天候によってはコースを変更します。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：6月8日（日）

集合：午前 9 時 30 分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:50 発に乗車。

担当：千鳥、新井、鶯飼、倉崎、田島、飛田、中川、村上、茂木

見どころ：土手からゴルフ場の間を通り押切河原まで歩きます。子育て中の鳥を観察しながら歩けば、河原でオオヨシキリ、カイツブリの幼鳥が待っています。

羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期日：6月12日（木）

集合：午前9時、羽生水郷公園北駐車場。
交通：羽生市福祉バス手子林・三田ヶ谷ルート（ムジナもん号）で東武伊勢崎線羽生駅東口8:05発、南羽生駅8:22発で、「羽生水郷公園・キャッセ羽生」下車。
担当：相原(修)、相原(友)、新井(巖)、植平、竹山、飛田、中川、茂木
見どころ：公園の芝生広場のあちこちでヒバリが遊び、青葉にひそむ夏鳥やエサを運ぶ親鳥が飛び回っています。梅雨が心配な時期ですが、平日の公園へお出かけ下さい。
共催：羽生水郷公園管理事務所
注意：帰りのバスの便は14:51発です。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：6月15日(日)
集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ（注意：担当者は8時過ぎに北浦和東口到着予定です）。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。
後援：さいたま市立浦和博物館
担当：浅見、青木、赤堀、楠見、小菅、小林(み)、柴野、須崎、新部、畠山、増田、若林
見どころ：6月は、ここ数年、雨で中止が続いています。テルテル坊主をお願いします。芝川でカワセミを探します。コチドリのかげ姿も、じっくり観察したいです。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：6月21日(土) 午後3時～4時ころ
会場：会事務局 108号室

日本野鳥の会埼玉 総会のご案内

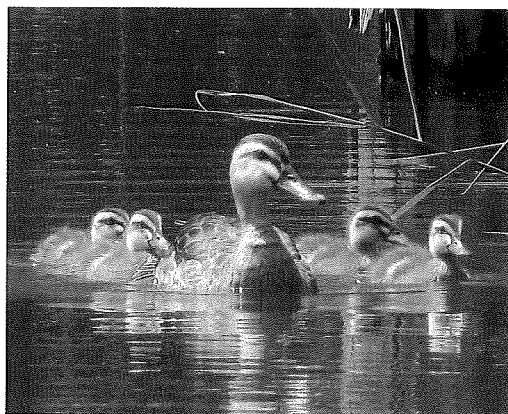
日時：6月29日(日)
午後1時00分 受付開始
午後1時30分～2時20分 記念講演
午後2時30分～4時00分 総会
会場：さいたま市民会館うらわ(さいたま市浦和区仲町2-10-22) 6階 603-605 集会室。
交通：JR京浜東北線浦和駅西口から県庁通りを西へ。埼玉会館手前角右折。玉蔵院を通り抜けて約400m左側。徒歩約10分。
記念講演：本部自然保護室長葉山政治さん「鳥獣保護法の改正について(仮題)」、普及

室堀本理華さん「探鳥会スタッフ通信について(仮題)」。

総会議題：平成25年度事業報告と決算報告、平成26年度事業計画案と予算案、平成26年度役員を選出。

参加資格：会員であればどなたでも。

前年度の活動を振り返り、新年度の予算や方針を決める大切な総会です。多数の方のご参加をお待ちしています。



カルガモ親子

IT委員会が発足しました

活動テーマの一つに、会のホームページ(以下、HPという)の改革があります。「しらこぼと」創刊号と総目次のHPでの公開も、ここから生まれた話です。残念ながら作業が遅れて、この原稿を書いている時点ではHPへの掲載は未完です。何せ、鳥見の傍らの慣れない作業。つつい遅れがちになります。こんな頼りない委員会ですが、夢だけは大きく地道に着実にそして持続力をもって活動していきたいと思えます。会員の皆様のご支援、よろしくお願ひします。

《これからやりたいこと》

1. 探鳥会ニュースのタイムリーな掲載
2. 探鳥会中長期予定の掲載
3. 探鳥会報告や研究部調査のデータ掲載
会の発展と会員増を目指して！



行事報告

1月5日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加：48名 天気：晴

マガモ カルガモ ハシビロガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ ノスリ コゲラ アカゲラ アオゲラ モズ ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ トラツグミ シロハラ ルリビタキ ジョウビタキ キセキレイ ハクセキレイ ビンズイ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (35種) (番外：ガビチョウ) 新年の挨拶を、中島康夫前代表と、国営武蔵丘陵森林公園から委託された岡田徳之責任者をお願いした。下見で確認出来たトラツグミの写真を見て頂き期待を膨らませ出発。山田大沼周辺のカワウは巣材運び。カモは6種類、おまけに亜種のアメリカコガモを観察。中央口で鳥合せ直前にトラツグミが出て、皆さん満足そうだった。(藤掛保司)

1月5日(日) 戸田市 彩湖

参加：32名 天気：曇

ヨシガモ ヒドリガモ カルガモ ホシハジロ キンクロハジロ ホオジロガモ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ オオバン イソシギ ユリカモメ セグロカモメ カモメ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ メジロ ムクドリ ツグミ スズメ ハクセキレイ タヒバリ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ アオジ (34種) (番外：ドバト) 風で波立つ湖面に水鳥の姿は少ない。オオバンの群れが岸で何かついばんでいる。橋を渡って北岸へ。小鳥の姿が目につくようになり、ベニマシコも姿を確認。時々、“風除け休憩”をしながら進む。給餌目当てのユリカモメの群れから少し離れてカモメの若鳥1羽。ホオジロガモの♀型1羽も発見。20羽以上のヨシガモの群れも飛んできた。カンムリカイツブリの群れに夏羽に変わり始めた個体が2～3羽見られた。(小林みどり)

1月11日(土) 千葉県 ふなばし三番瀬海浜公園

参加：33名 天気：晴

ヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ スズガモ ホオジロガモ ウミアイサ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ カワウ オオバン ダイゼン シロチドリ ミヤコドリ イソシギ ミユビシギ ハマシギ ユリカモメ カモメ セグロカモメ オオセグロカモメ ミサゴ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ メジロ ムクドリ スズメ ハクセキレイ アオジ オオジュリン (31種) (番外：ドバト) 浜に出てシギ、チドリを見るが、種類が少ない。沖合にホオジロガモ、ウミアイサ。東防波堤に行くアシ原でオオジュリンが多数。ここでは珍しい。防波堤でミヤコドリ約200羽が休んでいた。(佐久間博文)

1月12日(日) 熊谷市 大麻生

参加：43名 天気：快晴

カルガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ トビ ハイタカ ノスリ カワセミ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (30種) (番外：ドバト、ガビチョウ) 土手沿いの用水路でアオサギとカワセミが一直線上に出現。ゴルフ場の木々にエナガが姿を見せ、シジュウカラとコゲラも鳴き声が聞こえた。茂みと小川で休憩中にノスリとハイタカが上空を旋回。全員が堪能した。カシラダカは多く、他は少な目であった。最近では鳥数が少なく感じる。(茂木幸蔵)

1月13日(月、休) 春日部市 内牧公園

参加：43名 天気：快晴

キジバト アオサギ ノスリ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ エナガ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ オオジュリン (25種) (番外：ドバト) 相変わらず冬鳥の姿は少なかったものの、種数はそこそこに出てくれた。枯草地面で採餌中のカシラダカを近くで見られ、屋敷林上空をハシブトガラスに追われつつ、

ゆっくり飛過したノスリの姿は印象に残った。それにしても毎冬、群れていたシメたちは一体、どこに行ってしまったのだろうか。(石川敏男)

1月18日(土) 深谷市 仙元山公園

参加：20名 天気：晴

カルガモ コガモ キジバト ダイサギ コサギ
コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス
シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メ
ジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ イソヒ
ヨドリ スズメ キセキレイ ハクセキレイ カ
ワラヒワ シメ (23種) (番外：ドバト) 今季は冬
鳥が少ない。滝宮神社で見たあと、ちょっとドキ
ドキしながら唐沢川合流点に向かう。実は、下見
で珍鳥を見たのだ。25分粘ったが見つからず、諦
めて仙元山に向かって歩き始めたとき、橋の下を
何か飛んだ。お腹が赤く見えた。あわてて戻ると、いた！ 綺麗な♀のイソヒヨドリ。23種と低調だったが、皆さん満足そうだった。(新井 巖)

1月18日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：11名

宇野澤晃、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、柴野耕一郎、志村佐治、玉井正晴、藤掛保司、吉原早苗、吉原俊雄

1月19日(日) 加須市 渡良瀬遊水地

参加：25名 天気：晴

キジ ヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ
コガモ ミコアイサ カワアイサ カイツブリ
カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバ
ト カワウ アオサギ ダイサギ セグロカモメ
トビ チュウヒ コゲラ ハシボソガラス ハシ
ブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ メジロ
ツグミ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ シ
メ ホオジロ オオジュリン (31種) (番外：ドバ
ト) 歩くのもままならない程の強風で中止も検討
したが、途中で戻って来る事として出発。中の鳥
の野鳥観察台で風を避けながらの探鳥が中心にな
ったが、お目当てのミコアイサ、カワアイサを近
くで観られた。(佐野和宏)

1月19日(日) さいたま市 三室地区

参加：53名 天気：晴

キジ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト

カワウ アオサギ オオバン セグロカモメ コ
ゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス
シジュウカラ ヒヨドリ メジロ ムクドリ ツ
グミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セ
グロセキレイ タヒバリ カワラヒワ シメ ホ
オジロ アオジ (27種) (番外：ドバト) 強風のため
コースを変更して芝川の下流に向かい、「きのこ
免疫研究所」の裏手へ回る。偶然、その地主さん
に出会い、風の少ない畑の中を通らせてもらえ
た。さらに、探鳥会で訪れたことのない雑木林に
も立ち寄る。鳥の種類は27種になったが、ゆっ
くり見られたのは、ほんの数種。中でもハクセキ
レイが目立ったが、地面を歩き回ることが多いこの
鳥は、風の影響を受けずに活動できるということ
だろうか？ お天気のこととはいえ、せつかく鳥
を見に来て下さった参加者の方々に十分楽しんで
もらえなかったのが残念。(小林みどり)

1月25日(土) 久喜市 久喜菖蒲公園

参加：52名 天気：曇

ヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ オナ
ガガモ トモエガモ コガモ ホシハジロ キン
クロハジロ ミコアイサ カイツブリ カンムリ
カイツブリ キジバト カワウ ゴイサギ アオ
サギ ダイサギ オオバン セグロカモメ オオ
タカ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブト
ガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メ
ジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ イソヒ
ヨドリ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ
カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ オオジュ
リン (40種) (番外：ドバト) 昭和沼のカモたちは
アシ原を出て見やすい所にいた。栈橋でロープに
とまったトモエガモ♂2羽とヨシガモを発見。ヒ
ドリガモやオオバンも眼下を泳ぐ。移動して見渡
すと、芝生で採餌するツグミ、梢で羽繕うシメ、
樹間を飛び交うシジュウカラ。後方の人が工場の
一角にイソヒヨドリ♂を見つけた。向かいの沼で
はキンクロハジロの群れに繁殖羽に変わりかけた
カンムリカイツブリが1羽いた。フェンス上のジ
ョウビタキ♀に見とれていると、沼にミコアイサ
♀がいるという。誰かが「カラスに追われたタカ
が浮島に降りた」と叫んだ。オオタカ成鳥だった。
再びのアシ原ではモズとホオジロがポーズ。今回
の目玉の一つ、オオジュリンの群れが良く見えた。
沼も林も賑やかな探鳥会だった。(長嶋宏之)



●「ヒナを拾わないで!!」キャンペーン

今年も恐怖の誘拐事件多発の季節になりました。野鳥たちのヒナの話です。巣立ったばかりのヒナはまだうまく飛べず、地上にいることが多いのですが、それを



「保護」してしまうと、さあ大変、親鳥から見れば「誘拐事件」の発生です。

本誌前月号特集で、会員の獣医師さんご夫妻に、傷病野鳥やヒナへの対応を詳しく紹介していただきましたが、ヒナが地上に落ちているように見える場合、人が近くにいる間、親はなかなか姿を見せません。保護すべきかどうかの判断は大変難しく、ヒナの消耗を避けるためには、人がその場から離れるのが一番です。

詳しくは「本部ホームページ TOP→目的別に探す→ヒナを拾わないで!!」でごらんください。ポスターを送ってもらう事や、ダウンロードもできます。今年のポスターのイラストは、埼玉会員の富士鷹なすびさんです。

●ツバメの子育て状況調査 2014

2012と2013調査で減少傾向にあること、2013 調査では、1 巣あたりの巣立ちヒナ数が、村落部で 4.28 羽、都市部で 3.87 羽と、差のあることが明らかになりました。今年も調査を継続します。詳しくは「本部ホー

ムページ TOP→目的別に探す→ツバメのキャンペーン」でごらんください。

●会員がDVD新発売

会員の佐藤進さん(さいたま市)が、『日本百鳴鳥202』(3時間30分)を発売。会員割引価格ブルーレイ3,780円(定価4,860円)、DVD3,350円(4,104円)。お申し込みはFAX 048-623-6359に。

●会員数は

5月1日現在 1,823 人。

活動と予定

●4月の活動

4月12日(土)『しらこぼと』5月号校正(相原修一、小林みどり、佐久間博文、志村佐治、長嶋宏之、藤掛保司、山部直喜)。

4月20日(日)役員会(司会：山部直喜、各部の報告・次期役員候補・その他)。

4月21日(月)『野鳥』誌を購読しない会員向け『しらこぼと』5月号を、郵便局から発送(海老原美夫)。

●6月の予定

6月7日(土) 研究部・編集部・普及部会。
6月14日(土) 7月号校正(午後4時から)。
6月21日(土) 袋づめの会(午後3時から)。
6月22日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

4月27日、秋ヶ瀬公園探鳥会に参加した。ここで30年前に第1回探鳥会が始まっている。あるリーダーの挨拶「その時、私はメインリーダーを務めました」。別のリーダーは「私は参加者の一人でした」。自分は集合時間に遅れ、ゴールで待っていたことを思い出した。(山部)

しらこぼと 2014 年6月号(第 362 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamazekuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社